

2025 年 6 月 30 日

株式会社デンソー  
東レ株式会社  
株式会社野村総合研究所  
本田技研工業株式会社  
株式会社マテック  
リバー株式会社

## 自動車産業における再生材利用の拡大を目指し、 BlueRebirth 協議会を設立

～自動車産業におけるサーキュラーエコノミー実現に貢献～

株式会社デンソー、東レ株式会社、株式会社野村総合研究所、本田技研工業株式会社、株式会社マテック、リバー株式会社は、使用済み自動車(ELV:End-of-Life Vehicles)の自動精緻解体<sup>\*1</sup>を起点とした Car to Car<sup>\*2</sup>実現のため、6 社が発起人となり、動静脈<sup>\*3</sup>が融合したバリューチェーンの構築を目指す「BlueRebirth(ブルーリバース)協議会」を設立しましたことをお知らせします。

近年、自動車産業では、持続可能な社会の実現に向けてサーキュラーエコノミーへの転換が求められており、再生材の大幅な利用拡大による天然資源の消費削減が大きな課題となっています。しかし現在、ELV を破碎した後材料を選別する手法が世界では主流であり、高純度の再生原料の確保が極めて難しい状況です。また、これまで動静脈の連携が十分ではなかったことから、高い品質基準と十分な供給量の両立が求められる自動車の材料として、再生材を用いるための取り組みが進んでいませんでした。

加えて、自動車リサイクル産業では、自動化・デジタル化の推進や、職場環境の整備による人手不足の解消が求められています。

今回設立した BlueRebirth 協議会は、これらの課題に挑戦し、2035 年に向けて自動車リサイクル産業を、自動車産業における資源循環型の新たなバリューチェーンの一翼を担う「再生原料製造業」へと進化させ、Car to Car の実現を目指します。

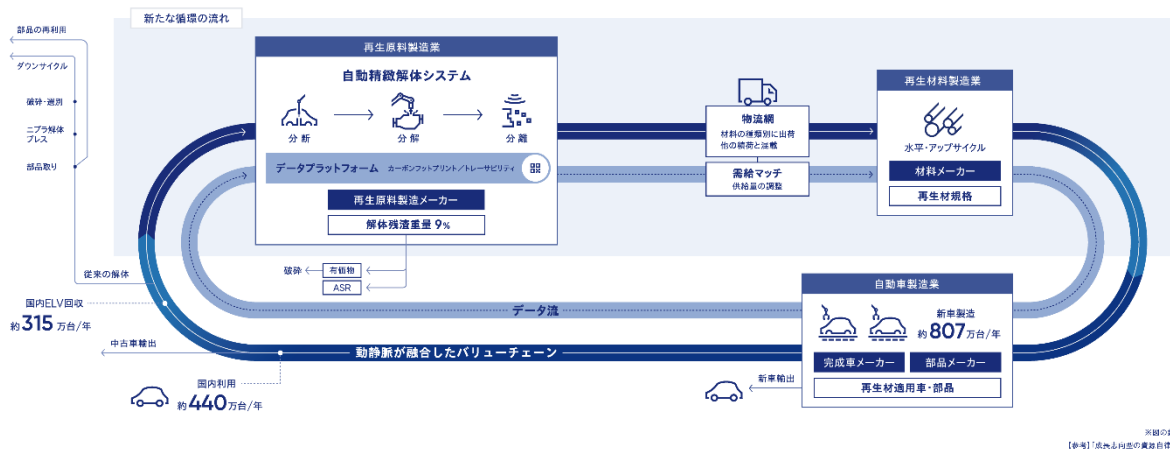
具体的な取り組みとしては、動静脈が融合したバリューチェーンの構築に向けて、ELV の自動精緻解体を起点に、参画企業や研究機関などと議論や調査を行い、技術開発や実証実験を重ねるとともに、関係企業や団体への提言なども進めていきます。

自動精緻解体は、AI やセンサー技術によって、変形した部品に対しても最適な経路でロボットが動作するなど高度に智能化されたシステムであり、従来の手法では達成困難な再生材の質と量の確保につながるだけでなく、人手不足の抜本的な解決にも貢献します。また、生み出された再生原料は、素性や環境負荷情報をデジタルプラットフォーム上に記録して動静脈で共有することにより、高信頼な再生材の安定供給が実現できます。

私たちは、自動車リサイクルにおける再生材の利用拡大とともに、Car to Car に向けた動静脈融合によるバリューチェーンの構築に取り組むことで、自動車産業のサーキュラーエコノミー実現に貢献していきます。

## ■BlueRebirth 協議会概要

設立日	2025 年 6 月 30 日
会長	武内裕嗣(株式会社デンソー 経営役員 CTO・CDO)
副会長	松岡直人(リバー株式会社 代表取締役社長)
幹事会	株式会社デンソー、東レ株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社野村総合研究所、本田技研工業株式会社、株式会社マテック、リバー株式会社
構成員	約 30 社(設立時現在)
Web サイト	<a href="#">BlueRebirth ブルーリバース</a>



※数値は2020年時点のものです。  
【参考】「資源循環型社会の構築」(2023/経済産業省)

## BlueRebirth 協議会が目指す 2035 年の姿

- \*1 自動精緻解体: ロボティクス技術や AI の認知・判断技術を駆使して、精緻な解体・選別を自動で行うこと。
- \*2 Car to Car: 自動車のすべての部品を再生原料に戻し、新車の製造に活用し循環させること。
- \*3 動静脈: 経済活動を動物の血液循環に例えた呼称であり、資源を加工して製品などを生産する産業を「動脈産業」、使い終わった製品を集め、再販売、再加工などを通して、再び社会に流通させる産業を「静脈産業」という。